

北極の氷、融解止まった？

ナゾ かがく

半分ほどになる。時間も燃料も節約できるので、予測へのニーズは高い。東京大学の山口一教授らは毎年5〜6月、北極海の氷が夏〜秋にどのよ

面積が予測とかなり一致した。面積は過去最小だった07年を下回り記録を更新した。ところが13年は予測と比べ、アラスカ沖のポーフォート海など

で氷が解けなかった。山口教授は理由として、5月以降の氷のデータを計算に入れていないほか、気象を考慮していないことなどをあげる。12年は発達した低気圧が海をかき交せて氷の融解を促し、一部では予測以

度先まで影響が残る。07〜08年に北極周辺の気圧配置と海洋循環の影響で暖かい水が大量に流入し、12年まで蓄積熱量は増加傾向が目立った。今年ようやく減少に転じ、氷の融解も減速したとみ

暖水流入なら再び縮小

地球温暖化によって北極海の氷は減り続け、今年は過去最小の面積になるとみられていた。ふたを開ければ昨年約1.5倍もあり、縮小は止まったかに見える。氷の融解スピードは気候に影響を及ぼす。北極海航路を使えるかどうかにも直結するため、何が起きたのか関心を集めている。

うに減るか予測している。まず人工衛星の観測データから冬季の氷の動きをとらえ、4月末時点でどこに氷が集まりどこでまぼらになるかを推定する。氷の密度が高い場所では厚くて夏でも残りやすく、逆に低密度なら薄く解けやすい。この関係を使い、氷の密度から面積を計算する。



上に解けたと。東京海洋大学の島田浩二准教授は、冬海から北極海に入る暖かい水の影響を重視する。熱は蓄積し4年程今年、北極の氷は予想に反して過去最小を更新しなかった(中央の実線内が予測、白い領域が9月11日時点) 東大・山口教授提供

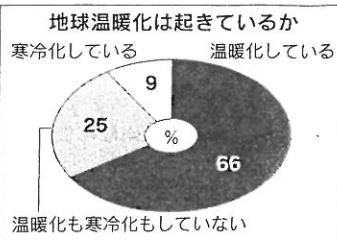
2013.11.17(B) 日経

2013.11.17(B)

読者と考える

◆電子版アンケートから◆

日本経済新聞電子版の読者に、地球温暖化は起きていると思うか聞いたところ、「温暖化している」との回答が66%を占めた。理由としては、食材の産地が北上している「30年前と比べ地元長野県内の冬



食材の産地・池の氷…実感の声

の池の凍り方が全く違う」など、実際の生活で感じているという意見が多かった。次に多かったのが「温暖化も寒冷化もしていない」で25%。「科学的な根拠が集まっていない」との意見があった。一方、「寒冷化している」は9%だった。

最近の異常気象の多発について聞いたところ、「地球温暖化が原因」との回答が68%に上った。「都市部や工業地帯など局所的だったガスや熱の放出の影響が地球全体規模に広がっている」との意見があった。「たまたま大気の状態が乱れている」は28%、「多発していると思わない」は14%。

対策どう打つのか 知見を重ね判断を

地球は温暖化によってますます灼熱(しゃくねつ)に見舞われるとする「温暖化地獄」論と、温暖化ガスによる気温上昇を疑う「懐疑」論が、真っ向から対立する構図は解消しつつある。関連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が果たしてきた役割は大きい。

報告書の内容や作成手法に批判もあるが、科学的知見を積み重ね疑問に答えようとした点は評価できる。完璧な将来予測は不可能だ。しかし、だから何もしないのか、最悪を想定してできる対策から手を付けるのか。一人ひとりの判断が問われる。(編集委員 安藤淳)